

<農業生産法人， 集落営農組織の育成を実践している事例>

○自然を愛し緑豊かな循環型農業を築き地域活性化を目指す

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	<small>ひがしひろしましとよさからょう にしのうら</small> 広島県東広島市豊栄町・西能良			
協定面積 26.8ha	田（100%）	畑	草地	採草放牧地
	水稲・飼料稲・ピーマン			
交付金額 264万円	個人配分			20%
	共同取組活動 (80%)	農業生産活動等の体制整備に向けた活動		56%
		水路、農道等の維持・管理		18%
		農用地の維持・管理		6%
協定参加者	農業者 32人、非農家 6人			

2. 取組に至る経緯

高齢化等で農地の維持管理の継続が懸念される中，設備投資の軽減化のため，機械の共同化を図りつつ，個別の経営から協定最終年の農事組合法人化へ向けて，第2期の本制度を活用することとした。また，地域の景観を守るためと集落の連携を密にできるため集落協定を締結した。

3. 取組の内容

- (1) 集落法人化に向けて農家個々の設備投資を抑え農業機械の共同利用を進めるため，コンバインを共同購入した。また，田植機の共同購入のために資金の積立を行っている。
- (2) 集落の耕作放棄地解消のため，レンタル牛による水田放牧を80a実施して，効果を挙げている。今後も範囲の拡大を図る。
- (3) 県道・市道等の公共施設の草刈り・簡易修理とともに，山際に接した道路の維持・管理に積極的に取り組んでいる。
- (4) 平成21年8月からは，懸案であった農事組合法人化に向けて週一回集会を行うなど一気に取り組み，10月17日に協定農用地の86%を集積して『(農)ファーム西能良』の設立がかなった。



稲発酵粗飼料用稲の刈取



水田放牧の実施

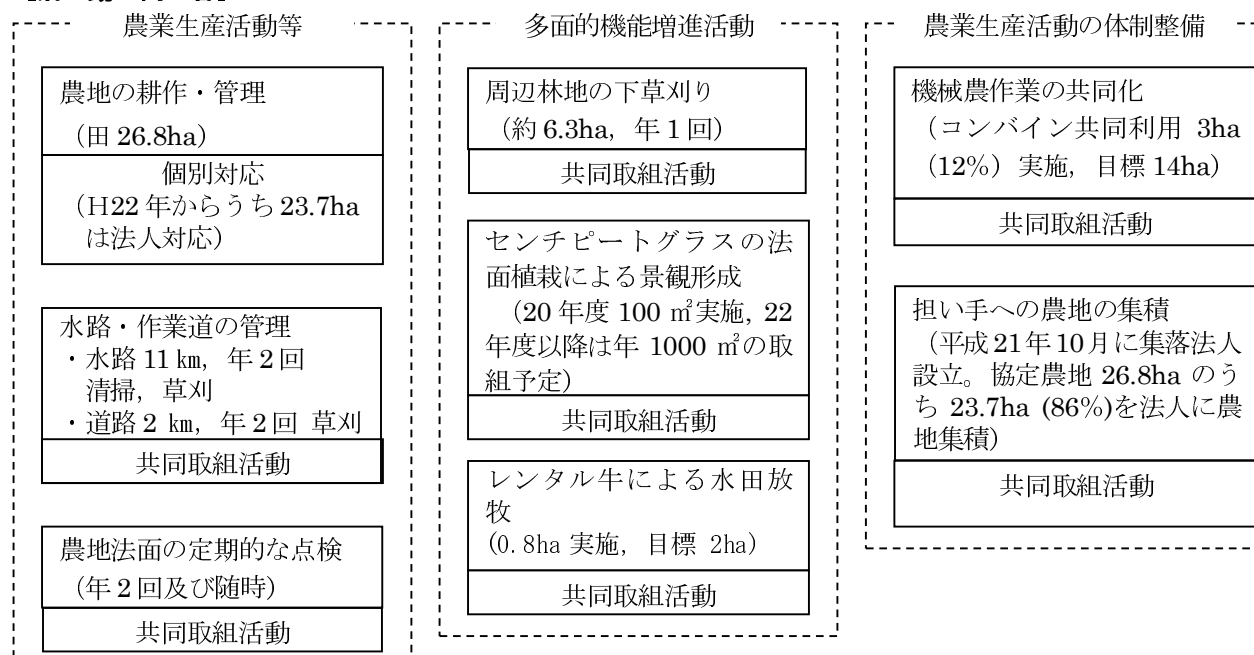
【集落の将来像】

- ・法人化の効果を最大限発揮した地域農業の実践。
- ・循環型農業の実践により緑豊かな西能良の実現。

【将来像を実現するための活動目標】

- ・法人への農地集積及び機械農作業の共同化による効率的農業の実践と後継者育成
- ・センチピートグラスの計画的な法面植栽等による法面管理軽減及び景観形成
- ・稲醗酵粗飼料用稲の栽培及び水田放牧等による循環型農業の構築

【活動内容】



集落外との連携

東能良地区と合同で旧小学校跡地「ふくろう館能良」を利用した文化・体育活動を連携して行っている。

4. 取組による変化と今後の課題等

- ・協定締結延べ 9 年で、集落景観は畦畔や周辺林地の下草刈り作業を行うことによって素晴らしく良くなり、共同作業化で集落内がまとまってきた。
- ・協定の目標であった法人化が可能になったのも、この制度の賜物と評価している。
- ・今後、さらに共同取組活動を活かし法面管理の軽減を図り、将来の後継者育成にも努め法人の更なる飛躍に活かしていきたい。

【平成 21 年度までの主な成果】

- 担い手への利用集積による体質強化 (当初 0ha, 目標 26.8ha, H20 実績 0ha, H21 実績 23.7ha)
- 共同機械導入 (当初: コンバイン 0 台, 田植機 0 台 目標: コンバイン 1 台, 田植機 1 台
実績: H18 コンバイン 1 台, H22 年 3 月(予定) 田植機 1 台)
- 共同機械利用面積(コンバイン: 当初 0 ha, 目標 14 ha, 実績 H21 年 3ha
田 植 機 : 当初 0 ha, 目標 14 ha, 実績 H21 年 0ha)
- 農地の多機能利用 (水田放牧) (当初 0ha, 目標 2ha, H20 実績 0ha , H21 実績 0.8ha)